

「認知症家族交流会」参加者募集

介護者の悩みの解決と精神的介護負担の軽減を図ることを目的に交流会を行います。喫茶店で行いますので、お気軽にお越しください。

日時 ●第1回 令和元年10月16日(水)
午後1時30分～3時30分
●第2回 令和元年11月14日(木)
午後1時30分～3時30分

会場 和の喫茶 縁かいな
(住所：向日市寺戸町殿長18-1)

内容 参加者との交流・意見交換
対象者 向日市在住で認知症高齢者を介護されている方(定員15名)

参加費 無料
【申込み】向日市社会福祉協議会 ☎075-932-1990
※定員(15名)になり次第終了

～障がい児療育事業～
手作り絵本の読み聞かせ

日時 令和元年12月14日(土)
午前10時～11時30分

場所 向日市福祉会館2階 機能訓練室
対象者 障がい児(18歳以下)及びその家族(介助者含む)

定員 30名
内容 手作り絵本「クリスマス」
講師 手作り絵本A&N 永野ゆち子さん 井上水ほさん

参加費 無料
申込開始 11月1日(金)～
【連絡先】
障がい者地域生活支援センター ☎932-1990/FAX933-4425



むこうシニア 歩こう会
～長岡京跡を歩こう～

向日市ボランティアグループのむこうシニアが歩こう会のイベントを開催します!! 今回は、長岡京跡を巡り歩きます。

皆さんも一緒に歩きませんか??

日時 2019年10月30日(水) 小雨決行
集合時間 午前10時15分(解散 午後1時30分～2時の予定)

集合場所 向日市福祉会館 玄関前
持ち物 お弁当、飲み物

対象 向日市在住の60歳以上の方
定員 20名程度
コース 福祉会館→向日市文化資料館→内裏内郭築地回廊→北真経寺→大極殿跡(公園)で昼食→築地跡→朝堂院西四堂跡(終了・解散)
※コースは変更の予定あり

申込み 10月16日(水)まで
【申込先】地域福祉課 ☎932-1961

福祉サービス利用援助事業
「生活支援員」募集

認知症や知的・精神障がいのある方の自宅へ訪問し、日常生活に係る金銭管理(生活費の払戻しや各種支払い手続き)や郵便物の確認、整理等を担います。

活動頻度 1～2時間/回(担当いただく利用者によって変動)

時給 910円/時間(別途事務費500円/時間の支給有)

【お問合せ】地域福祉課 ☎932-1961

地域サポーター養成講座のご案内

高齢者を対象に見守りやお話し相手などで訪問活動を行う地域サポーターを養成します。

日程 全2回
●1回目：2019年11月25日(月)
「高齢者の話を聞く」とは?～傾聴の視点から～

●2回目：2019年12月9日(月)
認知症高齢者への理解
講師：京都大学 こころの未来研究センター 清家 理さん

時間 午後1時30分～3時30分
場所 向日市福祉会館3階 大会議室
対象 向日市在住の方
定員 35名程度

【申込先】地域福祉課 ☎932-1961

善意のご寄付
ありがとうございました

(令和元年5月23日～令和元年9月2日)
乙訓JCじゃがいもクラブ 70,000円
匿名 1件 2,300円

アルバイト・パート職員の募集

デイサービスセンターで、高齢者を支えるやりがいのあるお仕事です! 私たちと一緒に始めてみませんか?

①送迎ドライバー
【時間】 午前8時20分～、午後4時30分～
(1日実働3h程度)
※朝夕で勤務可能な方に限る
※週3日～4日働ける方

【時給】 1,100円～
【資格】 普通自動車免許(AT限定可)

②送迎添乗員
【時間】 午前8時30分～、午後4時30分～
(1日実働3h程度)
※運転はありません
※週2回以上働ける方

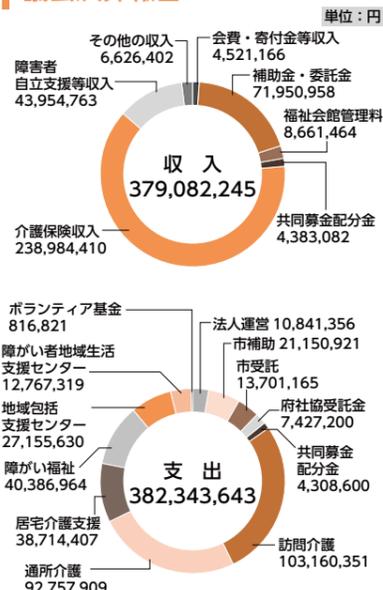
【時給】 910円～ **【資格】** 資格不問
【休日】 ①②シフト制
(日曜、年末年始等)

【待遇】 ①②交通費規定支給・労災保険加入・ユニフォーム貸与・健康診断・年次有給休暇・自転車・バイクでの通勤可(自動車不可)

【応募】 デイサービスセンター採用担当者までお気軽にお電話ください。
☎931-3294



平成30年度向日市社会福祉協議会決算報告



福祉パレット

ご近所福祉のまち 向日市をめざして

じぶんの町を 良くするしくみ 赤い羽根共同募金

向日市社協では毎年、「赤い羽根共同募金」と「地域歳末たすけあい募金」を実施しています。昨年、「赤い羽根共同募金」では2,828,352円が、「地域歳末たすけあい募金」では2,604,386円が集まり、地域の福祉活動や高齢者の見守り活動など、町を良くするための活動に使われました。今年も10月1日から、共同募金活動が始まります。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



若者の発想を生かして

地域づくり

自治会のピンチ!
未来に向けた地域づくりのバトンを探る



少子高齢化、ライフスタイルの変容、担い手不足など、今、自治会や地域諸団体の活動が低迷し、地域の絆が失われつつあります。そんな状況を変えるべく、向日市社協はインターンシッププログラムを企画し、昨年から立命館大学の学生に寺戸大牧自治会の活動に参加してもらい、「若者の発想を生かした地域づくり」に取り組んでいます。

地域の現状と課題

寺戸大牧は約50年前、新興住宅地として開発され、子育て世代が多く住むようになった地域です。当時の住民は今、70~80代。

「地域の高齢化等により自治会役員の担い手が不足し、自治会活動を存続する上で、年齢が障害になっている」と役員の中山尚子さんは指摘します。「近年、空き家を取り壊されて新築住宅が建ち、若い世代は増え、子育て世代との交流にも力を入れています。現在、自治会活動を次世代にどのようにバトンタッチするかが、一番の課題」と会員の佐々木恵子さんは話します。

インターンシップを受け入れて

学生の皆さんは住民の方々に地域課題に関するインタビューをして、夏祭りや防災訓練の企画を考え、若者なら

ではの発想と行動力で地域活動に新しい風を吹き込みました。敬老の日の活動もそのひとつ。

寺戸大牧自治会では、敬老の日の取り組みをしています。従来は自治会の各組長がお祝いの品を高齢者に届けていましたが、昨年から学生の発案で、子どもと一緒に高齢者宅を訪問。子どもたちから、お祝いのメッセージとプレゼントを渡され、涙する会員もおられました。役員の加門悦子さんは「今年の学生さんにも、新しい取り組みをしたという足跡を残してあげたい」と話します。

世代間交流が始まった

昨年は、敬老の日の活動をきっかけに子ども会活動が復活しました。現在、子ども会会員は11名。活動は、週1回は放課後に自治会館でボランティアスタッフと遊んだり、宿題をしたりして

過ごしています。他に向日市子育て連行事に参加したり、8月12日には万博公園へ遠足に行きました。

「この活動を続ければ若い人も安心して暮らせる」と中山さん。高校生ボランティアの坂本響さんは「地域のつながりは大切。違う世代が知っていることを教え合えるような地域になれば」と話します。自治会行事を通して、子育て世代との交流の機会を大切にしていくことで、自治会活動のバトンを次世代につなげられる」と期待を込めるのは佐々木さん。インターンシップを契機に新しい地域づくりが始まっています。



このように若い世代の知恵も借りながら、お互いさまの関係で助け合える「ご近所福祉」の取り組みを、向日市社協は地域の自治会等と一緒に進めていきます。

インターンシッププログラム Internship Program 寺戸大牧自治会での取り組み



メンバー紹介

自治会役員の皆さんとインターンシップの学生2人が顔合わせ



フィールドワーク

住民の方々に地域の現状や不安などをインタビュー



古紙回収

各家庭の古紙回収は学生と地域住民が触れ合ういい機会に



夏祭り

夕方からは盆踊りがスタート約200名が参加



敬老の日の訪問

子どもたちからのプレゼントのあと笑顔でパシャリ

社協の居宅介護支援センターは、要介護・要支援の認定を受けた方が自宅で日常生活を送れるようサポートしています。このシリーズでは、介護する人・介護を受ける人の思いをご紹介します。

笑顔で介護



約6年前から、持病のある岩水三重子さんを、自宅で介護されているご主人の明さん。「本人が家で暮らしたいと言うので、ケアマネジャーさんに相談しながら介護をしています」と話します。食事の用意や着替えなど身の回りのことは明さんが介助していますが、三重子さんは「要介護の状態でも、自分でできることは自分でしたいと思っています」と前向きです。排泄介助を頼むこともありますが、「いやな顔ひとつせず介助してくれるので、本当にありがたいです」と笑顔で話します。

そんな暮らしの中で、明さんが心がけているのは、1日1回、笑わせること。「本当は、自然に笑えるような雰囲気をつくりたいのですが、うまくいかないものですね」と明さんは苦笑いします。三重子さんは「毎朝、下手な漫談を聞かされるんですよ」と言いつつも笑顔。その表情から、感謝の気持ちがにじみ出ています。でも、実は「ありがとう」と直接言うのは照れくさく、つい当たってしまうこともあるそうです。そして思いついたのが、はがきで思いを伝えること。明さんが不在の時、お世話に来られる妹さんに、明さんへの感謝の気持ちを代筆、投函してもらっています。「はがきをもらった時は、うれしかった」と話す明さんのそばで、「そんなに喜ばれるとは思ってなかった」と三重子さんもうれしそう。いつまでもお互いを思いやる気持ちを忘れず、明るく暮らすご夫婦の姿がありました。

立命館大学
サービスラーニング
センター
秋吉 恵先生



寺戸大牧自治会の皆さんには、学生の自由な発想と主体性を大切にしてください。参加した学生が「いろいろな世代が地域づくりに関わることで、地域自体が存続する」ということに気づき、自分の言葉で語れるようになったことは大きな成果。他のプログラムにはない特徴だと思います。



立命館大学
理工学部3年次
河村和輝
佐野優太



理工学部の学生は通常、企業にインターンシップに行きます。しかし、就職先や住む場所があるのは「地域」。このプログラムは地域活動を考えるいい機会ですし、若者の発想を生かして地域を盛り上げたいという趣旨にも惹かれ、参加を決めました。取り組んでみて、地域づくりにいろいろな世代の交流が不可欠だと思うようになりました。